

ワークショップ参加者を募集します

<対象>

次の2点のどちらも該当する方

- ・ 高校生以上で、大江山地域内在住
- ・ まちづくりについて興味・関心があり、原則全回のワークショップに参加できる

<ワークショップ開催予定>

回	日時(予定)	内容	会場
第1回	令和4年12月3日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題や公共施設の課題の検討 ・ ワorkshopの進め方について ・ 再配置案の提示 → 意見交換 ・ 再配置案の評価方法の検討 ・ 修正再配置案の提示 → 意見交換 ⇒ 検討結果をもとに地域の再配置案のしぼりこみ	大江山 農村環境 改善センター (予定)
第2回	令和5年2月4日(土)		
第3回	令和5年3月25日(土)		

<募集人数>

※回数・日時などは変更する可能性があります

若干名

応募者多数の場合、応募理由などを考慮し選出します。ワークショップ参加に伴う報酬・交通費などの支払いはありません。ワークショップには、公募の参加者のほかに、各種団体などから推薦を受けた人も参加します。

<応募方法>

応募用紙に必要事項を記入の上、11月4日(金)午後5時までに、郵送、ファクス、メールまたは持参で、下記の申込先に提出してください。選出結果は、11月18日(金)までに郵送します。(ご提出いただく個人情報は、ワークショップ実施のために使用し、その他の目的には使用しません)



ご応募
お待ちしております!

江南区親善大使「姫ちゃん」
大江山地域名産の
越後姫だよ!

申込方法		申込先
郵送・持参	〒950-0195 江南区地域総務課 企画広報グループ ※宛先：住所不要	大江山地域実行計画 コミュニケーション事務局 (江南区地域総務課 ☎025-382-4619 財務部財産活用課 ☎025-226-2387)
ファクス	025-381-7090	
メール	件名「大江山地域ワークショップ参加希望」、下記の必要事項を記載の上、「chiikisomu.k@city.niigata.lg.jp」(右の二次元コード)にお送りください。	



大江山地域ワークショップ応募用紙

ふりがな		年齢	歳
氏名		電話番号	-
住所	〒 -		
応募理由			

新潟市 財産経営NEWS 広報紙 第1号

一緒に考えませんか？公共施設のこれからを！

大江山地域のまちづくり



<発行者>大江山地域実行計画コミュニケーション事務局 令和4年10月発行
(江南区地域総務課:☎025-382-4619 財務部財産活用課:☎025-226-2387)

少子超高齢化社会などに対応し、将来世代に過度な負担を強いることのないように、市有財産の効率的な管理・利活用を図っていくための方針を定めた「財産経営推進計画」。

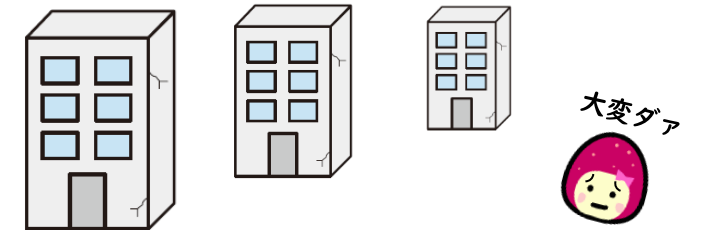
この計画に基づき、地域の身近な公共施設について、地域のみなさんと市が協働で、そのあり方について検討していきます。

なんで公共施設のあり方について検討するの？

公共施設が迎えている問題

老朽化する施設が増えていく

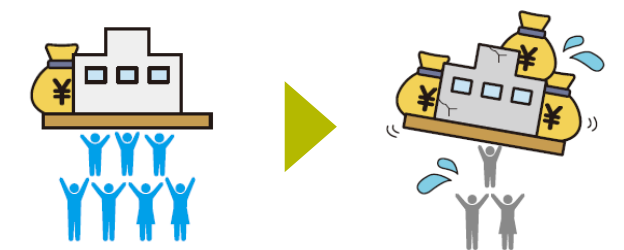
建物や設備は定期的にメンテナンスをしなければ、壊れて使えなくなります。市でも次々と古くなる施設への対応が迫られていきます。



老朽化する施設が増え、管理にお金がかかる

人口の減少と年齢構成の変化

人口の減少による税収の減少のほか、若年層の減少、高齢者層の増加などの年齢構成の変化にあわせて、人口規模や市民の需要に見合うように、現在の公共施設を見直す必要があります。



公共施設とサービスを全て維持することが困難

公共施設のあり方を見直すために

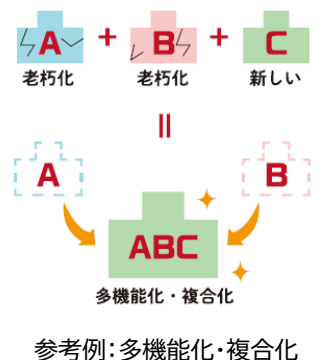
公共施設が迎えている問題に対応するために、2つの基本的な方針を決めました。この基本方針に沿いながら、地域のみなさんとの話し合いなどを通じて、一緒に大江山地域の具体的な見直し計画を作ります。

2つの基本的な方針

公共施設の総量削減

サービス機能の維持

人口減少や厳しい財政状況などを踏まえ、利用状況や求められるサービスに見合った施設の見直しなどを行いながら、施設にかかる費用を削減します。また、施設の多機能化・複合化などにより、施設数は減らしても、スペースの有効活用などによりサービス機能を可能な限り維持します。



どうやって地域別の「実行計画」の検討を進めるの？

■ 地域の意見をもとに計画を策定します

市では、中学校区を基本とした地域ごとに、地域のみなさんと協働で公共施設の将来のあり方を示す地域別の「実行計画」を策定します。

この実行計画を策定するために、地域のみなさんのご意見を反映するための手法を紹介します。

地域意見を反映するための3つの手法

●ワークショップ(WS)



参加者が意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめあげていく検討方法がワークショップです。参加者はいくつかのグループに分かれ、ファシリテーターと呼ばれる専門の司会者の進行で、年齢など関係なく対等な立場で意見交換を行います。

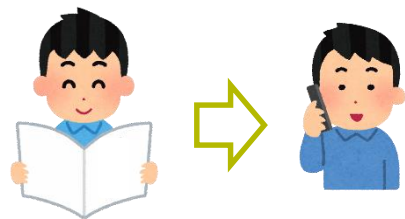
今回のワークショップの参加者は、大江山地域でコミュニティ活動をしている方や、公共施設利用団体の方、PTAなどのほか、公募によるメンバーにより構成されます。ワークショップの参加者は30～40名を想定しています。

公募によるワークショップ参加者を募集しています

地域のさまざまな方からご意見をいただくために、ワークショップの参加者を募集します。詳しくは4ページをご覧ください。

●広報紙

ワークショップに参加していない地域のみなさんに、ワークショップの検討内容をお伝えするほか、地域のご意見を募集します。今後の本紙を見ていただいて、ご意見がありましたら、お気軽にご連絡ください。



●パネル展示型説明会(オープンハウス)

ワークショップなどでの検討の状況を示したパネルを地域のみなさんが立ち寄る施設に展示し、立ち寄られたみなさんに詳しい状況をお伝えし、ご意見をお伺いします。



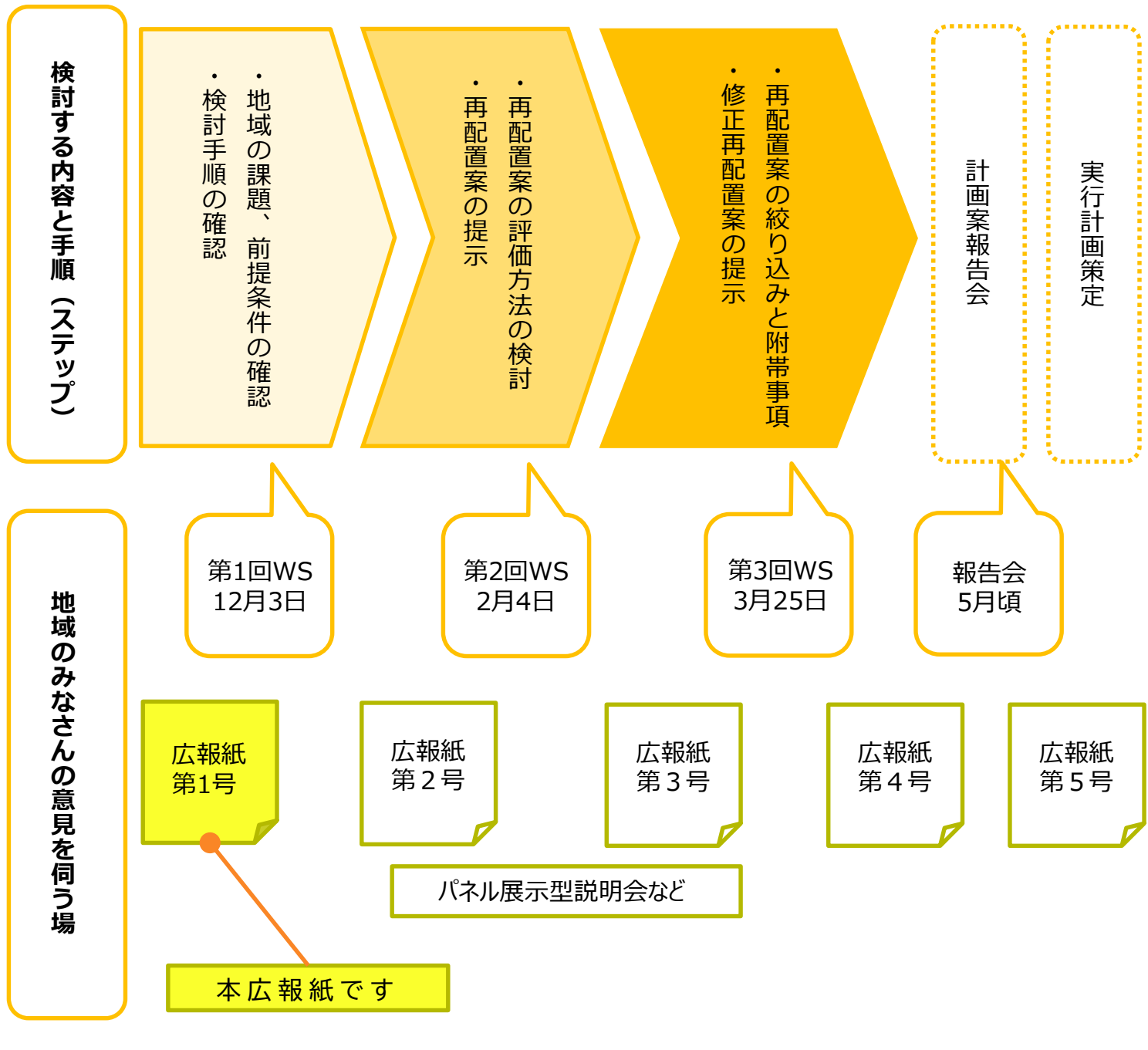
▲ パネル展示型説明会の様子

どうして大江山地域で検討するの？

大江山地域では、地域の活動拠点である大江山農村環境改善センターが大規模改修などの目安である築40年を越え、地域の公共施設が果たしている役割を改めて見直し、今後の公共施設のあり方について検討するタイミングがきています。ワークショップなどで得られた地域の意見などをもとに、市が地域の公共施設の将来の姿である大江山地域の「実行計画」を策定します。

大江山地域の公共施設の将来の姿(再配置計画)

地域別実行計画の策定までの流れ



みなさんと一緒に公共施設の未来を検討し「実行計画」を策定します

市は地域のみなさんと協働で、地域単位で公共施設の未来のあり方を検討し、具体的な地域別の「実行計画」を策定します。中学校区を基本とした55の地域ごとに、老朽化した施設が多い地域や公共施設に動きのある地域などから順次策定に着手します。



これまでに、5地域で「実行計画」が策定されたよ。取り組みは右の二次元コードから見てね!



新潟市ホームページ